

平成29年度「こころのケア」シンポジウムの開催

兵庫県こころのケアセンターの日頃の研究成果の発表と、「熊本地震を通して考える災害後のこころのケア」についての講演および「災害後の外部支援のあり方を巡って」をテーマとしたパネルディスカッションから成る「こころのケア」シンポジウムを開催いたしました。

- 1 日時：平成29年11月16日（木） 13：30～16：30
- 2 場所：兵庫県こころのケアセンター大研修室
- 3 参加者数：自治体職員や教育・保健・福祉関係業務従事者など約140人
- 4 内容

開会にあたり、加藤寛センター長が、シンポジウム開催の趣旨を含め、あいさつを行いました。

その後、山本 沙弥香主任研究員が「職場いじめ（パワーハラスメント）の実態と予防のあり方について」を報告しました。職場いじめの被害状況の調査報告と、職場いじめによりどのような影響があるかの研究報告、これまでの調査結果から考えられる予防策の提言を行いました。

次に、和久田 学大阪大学大学院連合小児発達学研究所特任講師に、「現場を変えるいじめの科学」について講演を行っていただきました。

この講演では、まずいじめの定義づけをし、いじめが引き起こす加害者への悪影響、被害者への悪影響、傍観者への悪影響を説明していただきました。次に和久田先生が所属される（公社）子どもの発達科学研究所で日本で初めて科学的に学校風土を計測する尺度を開発されたこと、この尺度により学校風土と不登校やいじめとの関係を証明できたとの報告がありました。

さらに、いじめを予防するには、まず大人が変わり、加害者にならない、傍観者にならない、加害者のモデルにならない、そのためには正しい知識と包括的で具体的な取組が必要との提言がなされました。次に子どもたちには一番目に学校風土の改善、二番目に早期発見、早期支援を行う、三番目にそれでもいじめが起きたときに加害者、被害者、傍観者への適切なアプローチが必要であるとの解説がありました。

時間いっぱいまで熱い講演をしていただき、実りの多いシンポジウムとなりました。